

六月定例県議会一般質問報告

改選前、県議会副議長をしていましたので、一般質問をすることが出来ませんでした。一年振りに一般質問を行いました。一般質問のやり取りを報告します。



改選後の所属委員会について、常任委員会は総務委員会、特別委員会は決算委員会に決まりました。

六月補正予算について報告します。新型コロナウイルス感染症は五月八日に二類から五類に移行されました。社会活動も経済活動も日常に戻りつつあります。けれども、心配はエネルギー費、物価が急騰していることです。この対応として、六月定例県議会途中六月十六日に県当局と県議会が息を合わせて八億七千万円の補正予算を可決成立させました。通常は会期末に採決に行われますが、早く行わなければ効果が弱くなるという事で、採決を早く行いました。内容は家庭用LPガス代の助成(総額



六月補正予算 八八億で物価高騰対策

十五億円)、特別高圧電力を利用する中小企業の支援(総額十三億円)、地域公共交通事業者「バス事業者・タクシー事業者など」への支援(総額一億二千万円)、物価高騰の影響を受ける医療機関・介護施設等に対しては十億五千万円、同じく薬局等に一億四千万円、同じく障害福祉サービス事業所等に二億九千万円、飼料価格高騰の影響を受ける畜産農家の飼料購入負担軽減に二十四億九千万円などとなっています。これで十分とは言えません。これからこの点に注力しています。



旭川水系中流ブロックの 残土処分について

西日本豪雨被害の復旧の中で、残土処分場不足が大きな問題となっています。今回は、令和二年十一月定例県議会にて私が質問して宿題になっていたことについて取り上げました。取り上げた理由は、今年、旭川水系中流ブロック域整備計画(米)が策定されて、今後の残土処分量を算定する根拠も出来たからです。

この整備計画(米)による河川改修、河道掘削等によりどれくらい残土が出て来る見込みか。土木部長 三十年間で概ね



宇甘川の浸漕箇所

二五〇万㎡の残土発生の見込んでいる。吉備高原都市開発予定地よりも近い所への残土処分場の確保は出来たのか。土木部長 令和二年十一月は定例会以降に旧建部町、旧御津町にそれぞれ一箇所ずつ確保した。



県民局の在り方について

県民の県の窓口が遠いという声を一般質問にまとめ、六月定例県議会で行いました。内容をお伝えします。

平成の大合併や政令指一定都市、中核市の誕生で、行政分野によって国と市町村間でのやり取りで住民サービスが行われる分野が増えていく。例を挙げると、保健所事務、産業廃棄物行政、土地開発行為の許可については、岡山市と倉敷市が独自に行っている。岡山市内で県が管理していた道路の整備維持管理は岡山市が行っている。こうして権限移譲が進んだことで、備前県民局の古京町にある保健所の担当は、瀬戸内市、玉野市、吉備中央町で岡山市は入っていません。担当エリアへの行き来のことを考えれば、これから必ずどこどこにある必要はないと考える。備前県民局の保健所も倉敷市が抜けているので、ここもそうではないのか。次に、備前県民局の県道管理について、吉備中央町の道路管理は弓の町の県民局まで行かなければならない。吉備高原都市から岡山駅まで三十五km、五十分もかかる。そして驚くのは、



備前県民局古京庁舎(保健所が入っています)

この担当者は玉野市の道路管理も行っていること。こちらは二十四・七kmの距離であり、時間は同じく四十九分かかる。こうした住民にとって身近な行政の担当者があるような遠方にあるのは住民にとっても行政担当者にとっても困ったことである。長期的に見て、県民局の在り方を見直す時期に入ったと考える。見直しを行って行く必要があるのか。知事 三県民局の位置については、人口の集積度や管内各地域からの交通の利便性を考慮して、現在の場所としたものである。県民局設置後、道路管理などの業務が政令指定都市へ移管されたものの、それ以外は大きな変化がないことから、現時点では、県民局の業務や所管区域、位置などについて見直すことは考えていない。



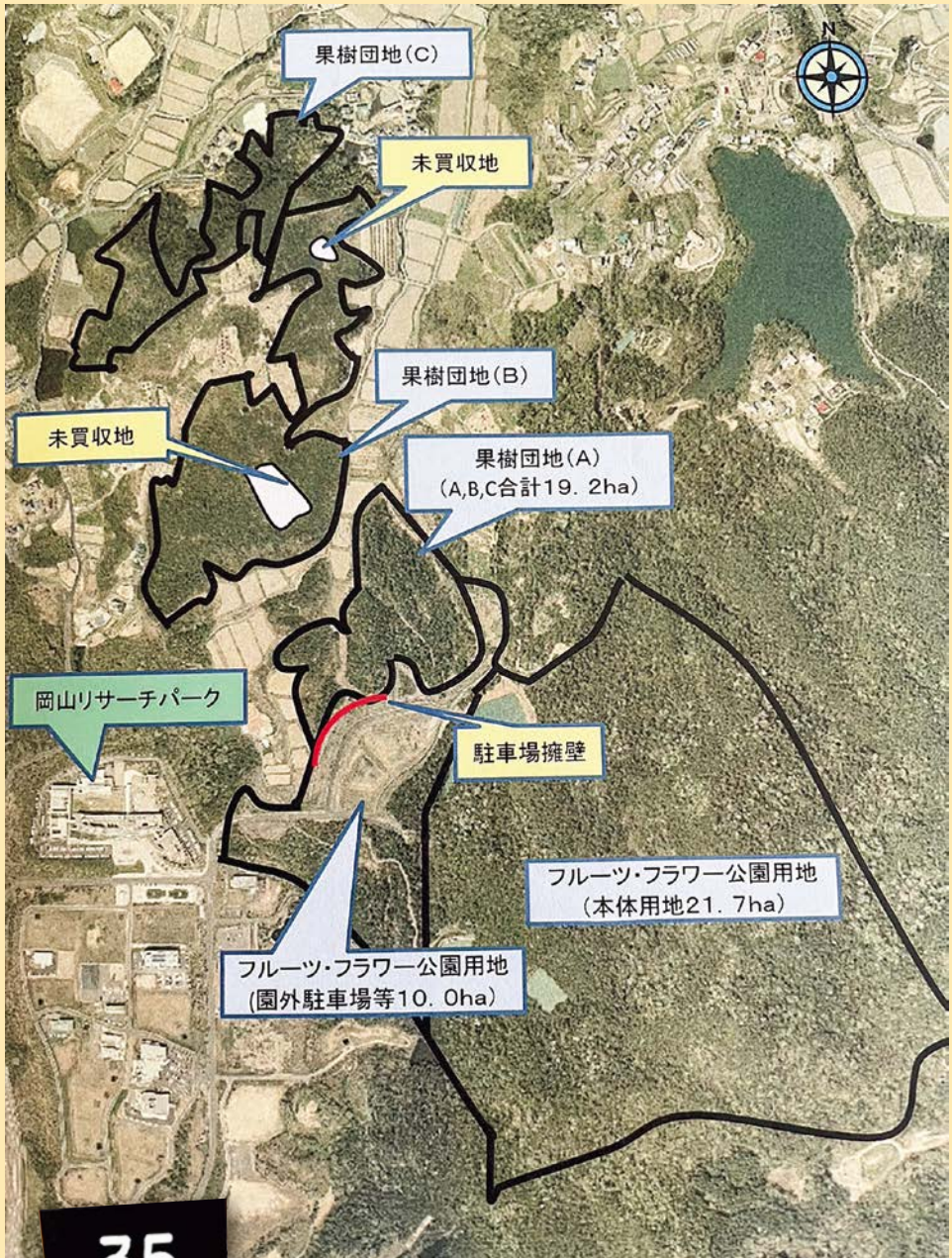
県の未利用地「岡山フルーツ・フラワー公園(仮称)」について

残土処分場候補地として、市町に協力要請をしているけれども、県の未利用地については調査をされたのか疑問に思い、私は平成八年から塩漬けとなっている岡山フルーツ・フラワー公園(仮称)用地五〇・九haを取り上げました。ここはリサーチパークの隣接地で、県は未利用地財産としてこの内の二一・七haをHPに掲載されています。

一点目。この五〇・九haの広い土地について、事業凍結と聞いているが、この土地にフルーツ・フラワー公園並びに果樹団地の整備をこれからも進めていく考えに変わりはないのか。変わらなければ、どのような条件の時に凍結解除がなされるのか。農林水産部長 現時点では、当初目的に沿った事業実施は難しく、また、今後の見通しも立っていない状況。事業の可否については慎重に

検討する。二点目。ここを県が有効活用していくとの方針を堅持するのであれば、凍結解除されなくても、吉備高原都市後期開発予定と同様に、事業計画に沿うような形で残土搬入をしたら良いはずで、残土搬入可能な箇所があるか。農林水産部長 実施設計を行っておらず、必要となる土の量についても不明であることから、搬入可能箇所の調査は行っていない。基本設計はあるのか。農林水産部長 基本設計もない。

三点目。もし、現計画を断念するのであれば、ここには一〇haの園外駐車場等があり、この土地の有効活用は県政の発展に大きく繋がるものとするが、このまま未利用地、遊休地としておくのではなく、有効活用してはどうか。知事 平成八年から事業凍結しており、公園用地については事業者ニーズを探っているところである。農林水産部長が所管するよりも全庁で対応できる部署に事務を移管してはどうか。知事 現状で対応する。



▲岡山フルーツ・フラワー公園(仮称)予定地



岡山フルーツ・フラワーパーク(仮称)予定地の入口を写したものです。これ以上奥には入れません。

35 太田正孝



岡山県水道広域化 推進プランについて

令和五年一月に発表された岡山県水道広域化推進プランについて取り上げました。このプランは事業統合の課題が列挙されていて、このプランの結論は事業統合のロードマップ作成は拙速としている。しかし、掲載資料を見ると、驚いてしまいました。事業統合シミュレーションによると、令和二十一年度の供給単価が令和元年の二倍以上になる所は備前市、和気町、井原市、高梁市、新見市、吉備中央町、矢野町、美作市、新庄村、鏡野町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町の十四の市町村もあるのです。最大では三十倍以上になる所もあると予想されていました。私は、事業統合をしなければ、どのようなことが起こるのだろうかとの思いで、県当局の見解を訊ねようと考えました。

私が訊ねたのは次の二点です。保健医療部長 しっかりと見える形で情報発信したい。保健医療部長 県及び水道事業者等で構成する岡山県水道事業広域連携推進検討会において議論を重ねて行っており、特段の意見はなかつた。知事 この件に関して、広域化で事業をした場合と単独でした場合との差がどうであるのかを県民に判断していただく参考資料にしたい。今回の事業統合シミュレーションを広く県民に知っていただく期間を設けるべきではないか。



知事 二点目。事業統合のロードマップ作成は拙速との結論について、二倍以上供給単価が上がると思われる市町村はどのような意見をお持ちだったのか。保健医療部長 県及び水道事業者等で構成する岡山県水道事業広域連携推進検討会において議論を重ねて行っており、特段の意見はなかつた。知事 この件に関して、広域化で事業をした場合と単独でした場合との差がどうであるのかを県民に判断していただく参考資料にしたい。今回の事業統合シミュレーションを広く県民に知っていただく期間を設けるべきではないか。